

私は 1990 年に大学を卒業し、札幌市内の橋梁・鉄骨を製作加工する会社に入社しました。

そこでは、鋼橋工事の部署に配属され、北海道から中部地方までの鋼橋に関する新設、拡幅、補修などに従事してきました。就職するまで北海道外には、大学の卒業旅行で山形県の蔵王ヘスキーに行ったことしかなかったため、各地域での鋼橋の違いに驚かされました。特に凍結しない地域では、排水管に塩化ビニル管が使用されており、その軽量さと加工の容易さが作業効率を向上させていることに驚きを感じました。

その後、17 年間勤めた会社は景気の煽りを受けて倒産し、現在勤めている建設コンサルタント会社に転職しました。転職後の主な業務は、既設橋梁の調査・補修設計であり、特に構造物の変状原因を探るのが面白く感じ、今後の維持管理に繋げられる建設時の時代背景や基準類、施工環境、継続して供給される劣化の因子などを調査し取りまとめることに重きを置いてきました。

このため、技術士試験には 20 年以上の歳月を費やし、2023 年度ようやく合格することができました。今後も、既設橋梁の長寿命化のため 70 歳まで現役を目標に、多くの方と意見を交換しながら業務を遂行していきたいと考えています。

技術士としての自信が湧いてきた今、その自信を後輩にも感じてもらえるように業務や社外活動を通じて指導や協働を行っていききたいと思っています。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

照井 一樹 (てるい かずき)

●建設部門(鋼構造及びコンクリート)

勤務先

株式会社 北未来技研



→次号は、堀田潤一郎さん(建設部門)

入社した頃から「建設コンサルタントに勤めるからには、いつか技術士資格にチャレンジし、技術士を取得したい。」と漠然と考えていました。しかし、仕事を通して実際に技術士を取得している方を見ているうちに、「これは自分には敷居が高く分不相応な資格だ。」との思いに至り、いつかは受験する 때가来るだろうとネガティブな(ある意味楽観的な)発想になってしまっていました。

そんな中、30 歳を越えさすがに一度も受験していないのも……。と思い直し、初めて二次試験を受験しました。一度目は筆記のあまりの難しさに絶望し途中で敵前逃亡、二度目は最後まで会場にいたことを誇り、三度目の正直で無事合格することができました。(業務で様々なことを経験させていただき、その中で勉強したことが多く出題される幸運にも恵まれました)

技術士を取得してからは、協議の際のわかりやすい資料作りや、関係者間の利害調整方法の検討・提案など、資格勉強を通じて意識したことを積極的に業務に取り込むことができ、試験を通して自分の視野を広げることができた日々実感しています。

試行錯誤の毎日ですが、今後も自己研鑽を怠らず、最新の知見や技術などにも目を向けて、変化する社会のニーズに対応できるようにするとともに、少しでも後進に技術を伝えていくことができればと思っています。結びとして、技術士取得の際に色々ご指導頂いた社内、関係会社、また業務を通じて成長させていただいたすべての方に、この場を借りてお礼申し上げます。

井田 卓朗 (いだ たくろう)

●建設部門(河川、砂防及び海岸・海洋)

勤務先

株式会社 開発調査研究所



→次号は、千葉悠子さん(建設部門)